



考える力



「今思うと、あのときの謝罪はうわべだけでした」少年院を取材していた時、そんな言葉を何人もの子どもから聞いた。あの時とは、事件を起こして逮捕されたり裁判にかけられたりした時のことだ。

面白半分に事件を起こしたものの、捕まると怖くなった。罪を軽くしたいし、親や弁護士に言われて被害者に謝る。けど本心からの謝罪ではない。少年院に入ってから、おとなしくしておけば出られるくらいに思っていた。

罪の意識の低さは親にも原因がある。例えば窃盗を起こしたのに、被害弁償をしたかどうか子どもに伝えない親が少なくない。実情を伝えないから、相手や親にかけた迷惑の度合いも分からない。

そんな子どもたちに対して各地の少年院が積極的に取り組んでいるのが、ロールプレイやロールレタリングだ。相手の気持ちを推測しながら即興劇を行ったり手紙のやりとりをしたりするものだ。

被害者になりきって演じたり手紙を書いたりすることで、自分の問題点に気づき、相手への共感が高まる。被害額を自分が稼ごうとしたらどのくらい時間がかかるか、考えさせることもある。そうした過程を経て、ようやく本心から罪をわびる気持ちになるという。

この手法、贖（しょく）罪教育だけでなく、いじめ問題にも使えないだろうか。「いじめはいけない」と口で言うだけよりも、相手への思いやりや想像力を育む効果があるのではないか。

大人社会にもいじめはあるし、犯罪は後を絶たない。飲酒運転がどんな悲惨な結果を招くか、いまだに理解できていない大人だっている。大切なのは考える力。

子どもにも大人にも考える力が必要だ。

【四国新聞：一日一言より】

学校では「生きる力」を身につけようと教職員は、日々取り組んでいます。生徒たちは、「生きる力」をつけるために学んでいます。学ぶ中で必要なことは、「考える力」です。毎日のすべての授業の中でしっかりと考えている生徒は、学ぶことで「生きる力」が身についてくるのです。学ぶことは、「わかった、わからない」とか「できた、できない」ではありません。学ぶということは、「考えたけどわからない」、「考えたけどできない」などまずは考えることから始まります。

みなさん、コミュニケーション（誰かと話す）をとるとき考えて発言や行動をしていますか？相手の立場や気持ちを考えて話していますか？学校内していると反射的に行動したり、発言したりする生徒をよく見かけます。イライラしたり納得がいかなかったりしたとき10秒、いや5秒でも大丈夫です。まずは、考える。そして発言や行動をしてください。これは家庭でも同様のことが言えると思います。ご家庭でも子どもたちに「考える力」をつけるためにもぜひ、お互いに10秒いや5秒でいいので時間をとってみてください。考えることで言動がかわってきます。詫間中学校は「考える力」を意識する学校です。

※※※※※※※※※※※※※※※※ 2年1組と1年1組 大活躍!!! ※※※※※※※※※※※※※※※※

10月31日(火)三豊市観音寺市中学校教科研究会（英語）で2年1組と嶋田先生が大活躍でした。
11月10日(金)全国中学校国語研究会で1年1組と畑先生がきっと大活躍してくれていると思います。
以前話した「他者評価」覚えていますか？みなさんの授業の様子は、とても高い評価をいただいています。今後も日々の授業を大切にして「対話のある授業」を続けていってください。